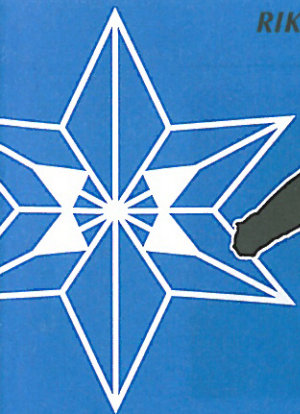




六稜舎報

INDEX

- 02 会長・前会長挨拶
- 03 副会長挨拶
- 04 新体制挨拶
- 06 会計報告
- 08 東京六稜会
第51回総会ご報告
- 10 六稜トークリレーと
東京六稜倶楽部
- 11 六稜プレイガイド
六稜文庫

- 12 Party Reports1
・記念碑の集い
・六稜観梅会
・ソフト部59周年
・吹奏楽部
・期別対抗ゴルフ

- 16 トピックス
・体操服の変遷

- 18 Party Reports2
・61期、65期、77期
84期、102期
- 21 名誉会長との座談会
- 24 母校に還った六稜生
・化学科 福田先生
・英語科 佐々木先生
- 26 母校の窓
・北野高校国際交流
- 28 文化活動振興賞
・教職員異動
- 29 大学合格者数等一覧
- 30 事務局だより
・理事会報告・六稜グッズ
- 31 六稜短信・表紙解説

51

2008.9.1



会長就任ご挨拶

六稜同窓会 会長 山本雅弘 (71期)



大役を仰せつかりましたが、まだどれだけお役に立てるのかわからず、五里霧中の心境です。ともかく誠意をもってお役目にあたりますので、よろしくお願い致します。

山本次郎前会長の下で2年間副会長をつとめさせてもらいましたが、正直いって何の貢献も出来ないままでした。こんなことになるのなら、もう少し真面目に勉強しておけばよかったと悔んでいます。

それでも、常任理事会、理事会、総会に出席し、各委員会の活動や、学年毎、サークル毎の催しの報告などを伺っていると、当会の長年にわたって積み重ねられた充実ぶりがよくわかりました。また、私よりひと足先きに某府立高校の同窓会長になった知人が、当会のホームページをみて、活動の多彩さに驚いたと話していました。改めて“伝統”の重みを感じるとともに、山本前会長、会長を支えられた常任理事、理事、各委員会の皆さん方のご努力に敬意を表する次第です。

会則を読みなおしてみました。第3条に当会は「会員間の親睦をはかり、母校の発展に寄与し、あわせて社会公益に貢献することを目的とする」とあります。長い歴史のなかで、これらの目的は有形無形さまざまな形で実現されていることと思います。ところで、この目的を腑分けしてみると、その肝は「会員間の親睦」にあるのではないのでしょうか。それがあってこそ「母校の発展に寄与し、さらには「社会公益に貢献」しうる組織になるの

でしょう。
もう少し踏み込んで云うと、同窓会とは、利害を越えた無私の“志”の集まりであり、老若男女を問わず、それぞれの人々にとって“人生のプラスαの場”なんだろうと思います。とすれば、そんな場を創り出すために、皆で寄ってたかって楽しもうという“想い”が大切になります。

私は大学卒業以来40数年間、大阪に本社のあるテレビ、ラジオ兼営の民放局に勤務してきました。放送は新聞とちがって、有限の電波を使う免許事業で、しかも地域免許制度です。私が勤めているのは、近畿広域圏の認可を得ている局です。

したがって、テレビ、ラジオの放送を通じ、また放送局だからできるさまざまなイベントを通じて、的確な情報と豊かな文化をこの地域の皆さんに提供するという社会的な責任を負っています。

私は、放送とは“ひとがひとといっしょになって、ひとをテーマにして、不特定多数のひとに訴えかける稀有な文化”だと思っています。必然的にそこには高い公共性があり、携わる者は自らを厳しく律する一方、人との関わりを大切にし、楽しみながら望ましい結果をもたらすよう努めることを求められます。

ところで、こうした精神構造と同窓会のそれとはよく似ているように思えます。なにせ自らが楽しめないと、楽しい結果は生まれない……。40数年間の経験のままだに、当会の役目を果たせるならこんな幸せなことはありません。

組織は、存在するかぎり進化を続けねばなりません。その進化の一翼を皆さんと一緒にしばらくの間担って行きたいと思います。ご指導のほどよろしくお願い致します。

前会長ご挨拶

明ヶ田尾

前会長 山本次郎 (62期)

はじめて煉瓦造りの頑丈な北野の校舎を見たとき、なんだか監獄のようだなと感じた。戦局苛烈の時期でもあったし、校内には軍国調の怒号が飛び交い、生徒は緊張し切っていた。毎朝、三国川のあたりまで来ると空気の汚れがひどく、頭が痛む。これはえらい学校に入ったゾ、と思った。

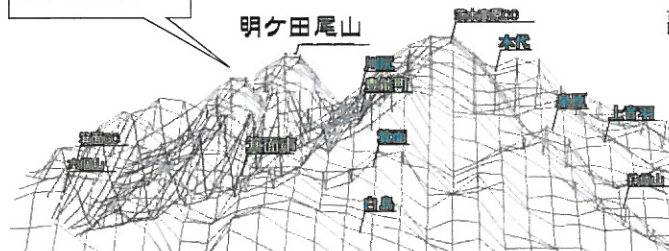
ただ救いがなかったわけではない。入学式からの帰り、阪急電車の牛立の鉄橋から快晴の箕面連山の姿を見たとき、明ヶ田尾を主峰とした山々は高くはないが、豊かな若々しい緑に萌えていた。ぼくらはこの山の麓で育って来たのだが、これからはこの山々を見ながら通学ができる。なるほど、

帰り途などつい明ヶ田尾の方に眼をやると、何かしら山も声をかけてくれているようにも思える。ぼくらは戦乱に耐えていたが、明ヶ田尾からは希望すら感じられた。

その山が怒り出したことがあったのだ。戦争末期、服部農園での勤労働員中、明ヶ田尾の気象が一変し、天地晦冥の大豪雨となり、臨教と生徒間で作業続行、中止をめぐる騒動がおこった。また、校舎がB29の空襲で焼け、友が殉難の死を遂げた。いずれのときも、暗黒の天の向こうの山々は全く姿を見せなかった。

北野明暗の六年間。志望校へと向かう夜行の三等車の床に新聞を敷いて横になりながら、さあ、これからの明ヶ田尾はどんな姿を見せてくれるのかなあ、などと考えたものである。

CGで再現した
明ヶ田尾山



副会長ご挨拶

副会長 志 甫 溥 (66期)

まず、本当に長期にわたって六稜同窓会と、北野高校のために尽くされた山本次郎前会長に心からの御礼とご苦労様のご挨拶を申し上げます。60年近く前に、同じ大学にうかった同期生の何人かと電車に乗っていて、まだ北野の校章をどこかにつけていたのでしょうか、『君ら北野か』と背の高い学生服の声がかかり、それから選抜優勝の詳細な経過を中心に沢山の話聞いたのが、在学中の山本先輩との初の出会いでした。そのとき山本さんから溢れた熱気が、家を離れて東京にきたばかりの私たちをあらためて「北野」で結びつけ、現在まで変わらない、と強く思うのです。山本さん、ありがとうございました。どうぞいつまでもお元気で後輩を見守ってください。

新会長に「楽しくいきましょう」がモットーの

山本雅弘さんを迎え、新副会長に上田さん、常任理事・各委員長顔ぶれも若返りました。東京から行事や会議の時だけに北野にくる私が残ってしまったように思われますが、まだまだ自分は六稜同窓会では新人です。

4月1日の入学式に列席して、ほんもののルーキーたち、無限の輝かしい未来と計り知れない不安な未来にむかう320人の凛とした素晴らしい顔付きをみながら、このみなさんに同窓会がどのような支援ができるのか、もだいなテーマだと痛感していました。

どのような場面でも、どのような間柄でも「北野」の出会いが新たな暖かい絆を見いだすことを一杯経験した私は、「情」を仲立ちとした同窓会の楽しい輪のひろがりに精一杯努めますのでどうぞよろしくお願いいたします。

副会長 上 田 成 之 助 (80期)

このたび、山本新会長の後を受け副会長に就任させていただきました第80期(昭和43年卒)の上田でございます。歴史ある「六稜同窓会」の副会長という大役を仰せつかり、大変不安ではありましたが、山本新会長の励ましも頂き、お引き受けすることと致しました。

私の北野高校時代の思い出というのは、正直申し上げて、余りありません。レベルのあまり高くない中学校から入学したせいか、入学直後の授業の内容とスピードに驚き、第1学期の中間試験の結果に大ショックを受け、ひたすら級友に追いつくための勉強に励んでおりました。クラブ活動もしていなかったこともあり、卒業してからも、同窓会にはほとんど顔を出さない状態でしたが、これからはできるだけ参加もし、微力ではありますが、六稜同窓会の発展のためにお役に立てるよう、精一杯頑張って参りますので、皆様のご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

新体制・同窓会役員ご挨拶

平成 20 年 4 月 1 日

役 職

会 長	山本雅弘 (71期)
名誉会長	石本正明校長
副 会 長	志甫 博 (66期) 上田成之助 (80期)
監 事	栢田圭兒 (62期) 北浦康弘 (71期) 鈴木基史 (80期)

常任理事

総務委員長	富田昌宏 (78期)
財務委員長	藤田秀昭 (62期)
会館催事委員長	徳岡浩二 (92期)
名簿委員長	和田芳郎 (80期)
広報委員長	千種康一 (88期)
FR委員長	田村 亘 (103期)
FR副委員長	松田典子 (95期)
東 京	深山欣秀 (74期)
学 内	出口 学 (94期)
事務局長	木村市三 (73期)
名誉顧問	稲畑勝雄 (56期) 山本次郎 (62期)
顧 問	大山利雄 (56期) 内藤 霽一 (61期) 鎌田俊一 (81期)

総務委員長 **富田昌宏** (78期)

六稜同窓会の会員は、今春の 120 期の卒業生を加えて 3 万 7 千名弱になります。78 期にとっては、先輩が 1 万 6 千名余、後輩にあたる会員が 2 万名弱いらっしゃる。昨年度に還暦を迎え、いつの間にか後輩の方が多くなりましたが、同窓会ではいつまでも新勢力のつもりで、先輩の経験を受け継ぎ、後輩のエネルギー・感性を吸収して参りたいと思います。

総会と常任理事会・理事会が主たる担当です。会員の皆様のご意見を同窓会活動に反映できるよう努めます。ご協力よろしくお願い致します。

財務委員長 **藤田秀昭** (62期)

財務担当として留任する事となりました。よろしくお願いします。

昨年度は同窓会館地下展示室の整備や学校化学教室空調工事援助 (135 周年記念行事) などに多

額の支出がありましたが、こうした件も一段落し、今年は通常年度の財務運営となります。

課題は年会費収入のアップです。振込のコンビニ利用で納入率も多少はアップしましたが、チョット頭打ちです。今年も若手会員のご協力を改めてお願いしたいと思っています。日常の同窓会活動では若い方のご活躍が年を追って活発になっています。年会費納入の面でも何卒ご協力をお願いします。

もう一つ、生徒諸君の文化活動振興にも協力しています。美術や音楽など学校の授業以外の分野で成果を挙げている生徒諸君を支援しようというものです。今年もユニークな作品が出てくる事を期待しています。 以上

会館催事委員長 **徳岡浩二** (92期)

一会館催事委員会のこれからの活動について

皆様にはもう既におなじみの六稜トークリレーを企画、運営しているのが会館催事委員会です。以前の会館運営という名称が、ソフト・ハードを包括し、学校や大阪府との連絡を担う窓口となっていたことから、今年度よりソフト部分のみを担当する委員会として、改称されました。

六稜トークリレーは、毎月原則として第 1 土曜日の午後 2 時から約 2 時間、開催されています。同窓生の各界のエキスパートが、概ね 50 人前後の参加者の前で講演し、和気藹々とした交流の輪が広がる、素敵な時間です。これをきっかけに講師の方の同期会やクラブ OB 会も同時企画され、同窓会の活性化にも役立っているようです。北野の伝統を活かした、年齢層も幅広い講師の方々は、多士済々。現役の生徒達にも社会に触れる機会を設けています。今後は委員会メンバーを更に増強し、山本雅弘新会長の方針でもある、楽しく有意義な時間を、同窓会員の皆様に提供できるよう奉仕していきたいと考えています。

課題としては、将来の同窓会を担う現役生との一歩踏み込んだ接点創り、FR 委員会や他の委員会、また東京六稜倶楽部とも連携し、若手同窓生の積極的な参画をはかることなどです。開かれた、気軽に訪れ、参加したくなる同窓会を目指して頑張りますので、ご支援のほどよろしくお願い致します。

名簿委員長 **和田芳郎** (80期)

このたび会長より名簿委員長として再度委嘱を受けましたので、5 年ごとに発刊される 135 周年

記念会員名簿の作成に取り組んでいます。

会員名簿は同窓会活動の大切な基盤であり、また会員同士をつなぐ架け橋です。正確な会員名簿を作成するにあたり、学年理事さん、クラブのOB会の役員さんなど多くの方々にご協力いただき、心から感謝しています。

残念ながら、それでも連絡の取れない不明者となっている会員もおられます。私はそうした不明者を一人でも減らしたいと考えています。その為にも会員の方々にはより一層のご協力をお願いいたします。

昨今では個人情報の保護が声高に叫ばれ、そのために名簿編成作業に滞りが出る場合も少なくないと聞いています。

幸いなことに我が六稜同窓会では、会員の皆様の信頼とご協力のおかげで、個人情報保護法による影響は思っていたより軽微で、ほっとしています。

会員にとって、あって良かったと思える135周年記念会員名簿となることを信じ、そして多くの会員の方にご利用いただければと思います。

ご協力いただいた全ての皆様、本当にありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願いいたします。

広報委員長 千種 康一 (88期)

昨年度までFR委員長をさせて頂きましたが、50歳に到達したことと、また6年間母校に通学していた子供達も卒業したこともあり、同窓会役員も同時に卒業と思っておりましたのに、図らずも広報委員長を拝命することになってしまいました。65期の岡田一彦先輩の後ですし、理系人間の私には不安で一杯なのですが、新会長の自ら楽しめの方針にて救われた思いがしています。自ら楽しむ広報を目指して頑張りたいと思います。広報委員会は六稜会報の発行が主な活動では有りますが、六稜WEBをはじめとしてmixiやSNS等の新メディアへの対応も必要になってきております。会員皆様のご協力の下に広報委員の方々と活動してまいりますのでよろしくお願い致します。

FR委員長 田村 亘 (103期)

この度FR新委員長に就任致しました田村 亘 (103期)と申します。

若輩者ですが何卒宜しくお願い致します。

よく「FRとは？」という質問を受けるのですが、FRとはFresh Rikuryoの略で、主に若手同士の交

流を深め同窓会への参加を活性化しようと各種イベント等を企画・実行する委員会です。

委員会が設立されてから5年目に入り、今年は新たに六稜祭への参加することになりました。(これまでに下記のような企画を毎年実施しています。)

- 六稜祭への参加『六稜写真館』(6月8日)
- 行列のできる就活相談所(11月8日予定)
- はじめての同期会プロジェクト(12月下旬)
- 六稜トークリレーDX(12月第一週予定)
- 六稜ネットワークサミット(随時)

また、これからも特に若い世代の会員が同窓会に興味を持って頂けるような企画をしていきたいと思っておりますのでご興味のある方は是非是非ご参加下さいませよう宜しくお願い致します。

また「若手活性化のためにこういうことをしてみれば？」という企画等ございましたら、下記までご連絡下さい。fresh@rikuryo.or.jp

事務局長 木村市三 (73期)

このたびの役員改選にあたり、引き続き事務局長をお受けしました木村市三(73期)です。前回は総務委員長との兼任でしたが、78期の総務副委員長であった富田昌弘さんという適任の方が委員長に就任され、事務局長に専任することになりました。

前同窓会長の62期の山本次郎さんは50年近く役員をされ、まさしく六稜同窓会の生き字引でありました。弁護士という職業柄だけではないと思いますが、厳しく事に当たられ、ご指導頂きました。我々後輩には大いなる所産を残して頂きました。

新会長の71期山本雅弘さんは放送マスコミ人として数々の要職にあり、ご多忙のなかに会長ご就任を決断されましたことに心から敬意を表したいと思います。

新会長の下、平成20年度の新体制は大きく若返りとなりました。新しく就任された役員のみなさんのやる気と同窓会を支えて行こうとするチームワークには素晴らしいものがあります。

同窓会の業務は駅伝のようなものだと思っています。その与えられた時期に精一杯務めて次の方達にバトンタッチできればと考えています。

今年新会員となられたみなさんは120期生の方達です。今年は135周年記念の年ですが、この方達がきっと素晴らしい150周年事業を、さらに200周年事業をやってくれることでしょう。

会 計 報 告

平成19年度 六稜同窓会一般会計決算報告

自：平成19年4月1日 至：平成20年3月31日

	平成19年度予算	平成19年度決算	備 考
収 入 の 部			
1 入会金収入	960,000	945,000	315名×3,000
2 年会費収入	24,000,000	18,641,000	6,220名
3 総会費収入	540,000	444,700	
4 寄付金収入	1,000,000	1,955,846	内、会館維持協力金559,500円
5 利 息 収 入	0	11,160	
6 同窓会記念品等売上	800,000	383,285	
7 基金会計取崩し	10,000,000	10,000,000	
収 入 合 計	37,300,000	32,380,991	
支 出 の 部			
1 運 営 費	12,590,000	11,394,417	
(1) 人件費	6,300,000	5,988,804	
(2) 旅費・交通費	1,100,000	1,118,530	
(3) 通信費	500,000	390,047	
(4) 印刷・事務用品費	950,000	724,299	
(5) 什器・備品	300,000	268,800	
(6) 会議費	100,000	56,770	
(7) 総会費	1,340,000	1,211,053	
(8) 慶弔費	400,000	155,500	
(9) 会費払込手数料	700,000	846,553	
(10) 同窓会記念品制作費	400,000	364,560	
(11) 雑 費	500,000	269,501	
2 広 報 費	7,700,000	6,367,554	
(1) WEB関連費	1,000,000	960,000	
(2) 会報発行関連費	6,400,000	5,407,554	
(3) 広報全般経費	300,000	0	
3 全国大会出場援助費	500,000	160,000	
4 各種事業援助費	700,000	524,442	
5 教育環境整備援助費	8,300,000	8,140,000	
6 同窓会館関連費	6,400,000	4,782,590	
(1) 什器備品・設備費	300,000	100,800	
(2) 光熱費	1,200,000	1,102,740	
(3) 設備管理費	200,000	126,000	
(4) 展示物修理費	2,000,000	2,886,050	
(5) 会館整備調査費	2,700,000	567,000	
7 予 備 費	3,989,886	0	
支 出 合 計	40,179,886	31,369,003	
本年度収支差額	△ 2,879,886	1,011,988	
基金会計積立金	0	0	
年会費前年前受	△ 9,004,000	△ 9,004,000	
次年度年会費前受	0	8,699,000	
前年度繰越金	11,883,886	11,883,886	
次年度繰越金	0	12,590,874	

以上の通り平成19年度一般会計報告を致します。

平成20年5月16日 六稜同窓会会長 山本 雅弘

上記一般会計報告は正確であることを認めます。

平成20年5月16日 六稜同窓会監事 枡田 圭兒

六稜同窓会監事 北浦 康弘

六稜同窓会監事 鈴木 基史

平成19年度 六稜同窓会名簿会計決算報告

自：平成19年4月1日 至：平成20年3月31日

科 目	決 算	摘 要
収 入 の 部		
1 予約金	2,244,000	561冊×4,000円
収 入 合 計	2,244,000	
支 出 の 部		
1 返信用葉書印刷	99,600	ひかり工房
2 後納郵便料	161,265	新北野郵便局
3 振込料	420	三井住友ＢＫ
支 出 合 計	261,285	
次年度繰越金	1,982,715	

以上の通り平成19年度名簿会計報告を致します。

平成20年5月16日 六稜同窓会会長 山本 雅弘
上記名簿会計報告は正確であることを認めます。

平成20年5月16日 六稜同窓会監事 柊田 圭兒
六稜同窓会監事 北浦 康弘
六稜同窓会監事 鈴木 基史

平成19年度 六稜同窓会基金会計決算報告

自：平成19年4月1日 至：平成20年3月31日

科 目	決 算	摘 要
収 入 の 部		
1 利息収入等	43,890	
収 入 合 計	43,890	
支 出 の 部		
1 取崩（一般会計へ）	10,000,000	
2 残高証明手数料	630	
支 出 合 計	10,000,630	
本年度収支差額	△ 9,956,740	
前年度繰越金	31,596,155	三井住友スーパ ー定期・りそな 金銭信託・郵便 貯金・他
次年度繰越金	21,639,415	

以上の通り平成19年度基金会計報告を致します。

平成20年5月16日 六稜同窓会会長 山本 雅弘
上記基金会計報告は正確であることを認めます。

平成20年5月16日 六稜同窓会監事 柊田 圭兒
六稜同窓会監事 北浦 康弘
六稜同窓会監事 鈴木 基史

平成20年度 六稜同窓会 一般会計予算

	平成20年度予算
収 入 の 部	
1 入会金収入	960,000
2 年会費収入	24,000,000
3 総会費収入	600,000
4 寄付金・協賛金収入	1,000,000
5 利息収入	0
6 同窓会記念品等売上	500,000
収 入 合 計	27,060,000
支 出 の 部	
1 運営費	13,150,000
（1）人件費	6,500,000
（2）旅費・交通費	1,100,000
（3）通信費	450,000
（4）印刷・事務用品費	1,200,000
（5）什器・備品	100,000
（6）会議費	100,000
（7）総会費	1,500,000
（8）慶弔費	400,000
（9）会費払込手数料	900,000
（10）同窓会記念品制作費	400,000
（11）雑 費	500,000
2 広報費	8,000,000
（1）WEB関連費	1,000,000
（2）会報発行関連費	6,000,000
（3）広報全般経費	1,000,000
3 全国大会出場援助費	300,000
4 各種事業援助費	2,800,000
5 教育環境整備援助費	1,000,000
6 同窓会館関連費	1,800,000
（1）什器備品・設備費	300,000
（2）光熱費	1,300,000
（3）設備管理費	200,000
7 予備費	3,901,874
支 出 合 計	30,951,874
本年度収支差額	△ 3,891,874
前年度年会費前受	△ 8,699,000
前年度繰越金	12,590,874
次年度繰越金	0

東京六稜会 第51回総会のご報告

松本 幹 (89期)



東京六稜会第51回総会が6月7日(土)に昨年と同じ神田の学士会館で行われました。幸い天候にも恵まれ、210名に及ぶ多数の出席者となりました。

【第一部 総会】総会は定刻通り13時から講堂で執り行われ、89期西山則子さんの司会進行で始まりました。まずは、東京六稜会・志甬博会長から今年4月に母校の入学式に招かれた時の話と、東京も大阪に倣って若い人の参加増員をはかり活性化したいとのご挨拶がありました。

来賓としてご出席いただいた石本正明校長、富田昌宏六稜同窓会常任理事からもご挨拶いただきました。石本校長からは、母校出身の橋下知事が進める公立高校復権構想には積極的に応えていきたいとお話があり、併せて今年着任された竹内教頭のご紹介があり、教頭ご本人からもご挨拶いただきました。また、富田常任理事からは、山本会長のメッセージが代読され、本年10月の135年記念総会への東京からの参加要請等が伝えられました。

最後に黒岩瑛一事務局長から会計報告と役員改選報告があり、志甬会長の再任が承認されて無事総会は閉会いたしました。

【第二部 講演】総会に続いては89期山田五郎氏(本名武田正彦文芸部・美術部)の講演です。TVの情報番組でコメンテーターを務める彼が選んだ演題は「経度の発見～時計が変えた世界史」です。大航海時代、国王名で莫大な懸賞金を付けて募集しても、永年実用に供する精度を上げられなかった経度測定技術のお話です。

雑誌編集で培ったテーマの掘下げとTVで鍛えた話術を駆使しての講演に、皆さん熱心に聞き入っておられました。

時を刻む仕掛けに脱進機(エスケープメント)を使った機械式時計は、13世紀中頃の欧州で、おそらくは修道院の夜間の祈祷時間を告げるために発明されました。時代は下り大航海時代、洋上で経度を正確に測定する力ギは、月と特定の星との角度差分析、または精度の高い時計による時差測定と考えられていました。16世紀には、ガリ



東京六稜会
志甬博会長



六稜同窓会名誉会長
石本正明校長



北野高校
竹内祥浩教頭



六稜同窓会
富田昌宏常任理事



東京六稜会
黒岩瑛一事務局長



レオも木星の衛星発見につながる天体観測や「振り子の等時性」の発見を通してこの難題に挑んだとか。

18世紀の英国で、ニュートンらを顧問とする経度委員会が発足。英国－西インド諸島間の航海で経度誤差が1/2度以内なら2万ポンド（現在の貨幣価値で12億円とも）の賞金を与える経度法を制定したところ、独学で時計を作っていた大工のJohn Harrisonが名乗りをあげました。生涯をかけて改良を重ね、天体観測派の学者達からの異議申立てや賞金差止めにも屈せずに精度を実証して、晩年遂に賞金を全額手にした経緯が紹介され、興味尽きない話が終わりました。

【第三部 懇親会】懇親会は、15時より開催されました。六稜同窓会寄贈の清酒「六稜」の鏡開きが、北野高校出口先生、徳岡六稜同窓会常任理事、東京六稜同窓会の志甫会長、松本さん、89期代表の多賀淳子さんによりとり行われました。

続いて出席者中の最高齢者で応援団に所属されていた49期中村典美氏より、会場全体に響き渡る大きな乾杯のご発声をいただきました。その後

は、しばし期毎のテーブルで歓談となりました。

次は新会員120期の方の紹介です。青山学院大の益岡さん、早稲田大学の下山さん2名の方より自己紹介をしていただきました。

いよいよお待ちかねの抽選会です。89期が自信をもって厳選した、BODY SHOP社のボディケア商品（岩田松雄氏提供）、山田五郎新刊本（同氏提供）、ジャム詰め合わせ（無添加パン工房 パパシユ経営小山邦子氏提供）各数点ずつを景品として、運試しを楽しんでもらいました。決してシナリオがあった訳ではありませんが、大阪よりお招きした石本校長、久保田六稜同窓会事務局次長にも景品を御持ち帰りいただき、前述の新会員下山さんには新刊本が当たり、その場で山田五郎氏がサインをして手渡されました。

終盤を迎え、次期幹事90期の方々に集合していただき、引継ぎの儀式として河野代表に89期山本氏からタスキが掛けられ、一言来年にに向けた決意表明をいただきました。

いよいよ最後となり、乾杯のご発声をいただいた元応援団中村氏にも入っていただき、全員で校歌斉唱し、山本氏によるエールが切られお披露目となりました。

最後になりましたが、東京同窓会の志甫会長をはじめとする常任幹事や事務局の方のご指導、ご支援、また六稜会会員の皆様方からの多くの有形無形の支援に対して、この場を借りて深く感謝申し上げます。東京六稜会第51回総会の報告とさせていただきます。



六稜トークリレー

Rikuryo Talk Relay

<http://rikuryo.or.jp/talkrelay/>

東京六稜倶楽部

<http://rikuryo.or.jp/tokyo/rikuryo-club/>

日 時★原則、毎月(第1)土曜日

13:30開場 14:00開演(約2時間)

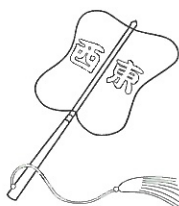
会 場★六稜ホール(六稜会館3F)

※1Fロビーも同時使用可

会 費★500円(お飲み物を準備しています)

主 催★六稜会館催事委員会

共 催★各期同期会 or クラブOB/OG会など



毎月第3水曜日★日 時

11:00開場 11:30開演(約2.5時間)

ライオン銀座クラシックホール★会 場

(銀座ライオン7丁目店6F)

2,000円(ランチバイキング付)★会 費

東京六稜会★主 催

山元一夫@64期 / 松本邦宏@70期★事務局



第49回 須原浩之先生
「断効競争よもやま話」



第50回 上山弘子さん@76期
「沖縄の大地に生きて
～琉球藍との出会い」



第51回 小林辰夫さん@59期
「宇宙カメラよもやま話」



第52回 末廣由夏さん@103期
「生む 生まれる 生まれ変わる」



第53回 泉 祐彰さん@68期
「カジノ経営の面白さ～
ラスベガスから見たアメリカ社会」



第54回 間瀬一郎さん@80期
「日本の人工衛星開発史～「おすみ」
から「かくや」まで、そして金星・水星へ」



第55回 三島佑一さん@60期
「北野の暗黒時代
～戦火をくぐった精神遍歴」



第56回 黒飛一志さん@108期
「子供たちをUSJに招待する
チャリティを通じて(仮)」



第57回 坂本知美さん@109期
「海外旅行に行きませんか(仮)」



第58回 国定浩一さん@71期
「阪神優勝の経済効果(仮)」



第59回 上田成之助さん@80期
「中之島新線と
京阪電鉄100周年に向けて(仮)」

休 1月 16日
January

9日 2月 20日
February

1日 3月 19日
March

12日 4月 16日
April

10日 5月 21日
May

7日 6月 18日
June

12日 7月 16日
July

2日 8月 20日
August

6日 9月 17日
September

11日 10月 15日
October

1日 11月 19日
November

6日 12月 17日
December

休 1月 21日
January

第61回 鶴田小夜子さん
「あなたは裁判員に指名され
たらどうしますか」



第62回 中山行輝さん@80期
「地域活性化とカジノ」



第63回 植田 敦さん@64期
「CO₂温暖化説は間違っている」



第64回 坂田東一さん@79期
「これからの日本の教育」



第65回 松田憲幸さん@96期
「ソースネクストの創意工夫」



第66回 川条しかさん@100期
「少子高齢化時代の対策と
社会保障制度について」



第67回 田中 裕さん@87期
「救急医療は社会を映す」



第68回 薦 信彦さん
「シルクロードの日本人伝説～
ナボイ劇場を造った抑留者たち」



第69回 藤江俊彦さん@77期
「危機管理(仮)」



第70回 島本慈子さん@82期
「戦争で死ぬ・ということ(仮)」



第71回 阪田雅裕さん@74期
「政府の憲法9条解釈について」



第72回 杉尾伸太郎さん@67期
「フランス・フォーマルガーデン
の成立」



第73回 辻 孝夫さん@80期
「演題未定」



「六稜プレイガイド」 リニューアル

久保慶護 (117期)

「六稜プレイガイドを自動化してくれへんか？」
Web マスターの谷さんからそう言われたのは、
今年の 4 月頃の話でした。最初は「自動化」の
意味がよくわからなかったのですが、聞いてみる
と、投稿内容を自動で HTML に整形するという
内容でした。ちょうど Web システム開発の勉強
をしている最中でしたので、快く受けさせてい
たきました。

とはいっても、Web システムをゼロから製作
した経験はなく、最初のテストバージョンをリリ
ースした際には、50 個以上の不具合と戦わなけ
ればなりませんでした。大まかな仕様しか固めず
に開発に着手したため、新たなテストバージョン
をリリースするたびに課題が増える状態でした。

しかし、谷さんの大きな手助けもあり、7 月も
半ばを迎える頃には、実際に六稜 Web 上でテス
トを開始することができました。このシステムの
導入によって、投稿された情報を、従来と比べて
圧倒的に迅速に公開することが可能となりました
ので、皆さん是非ご利用ください。今後は、投
稿者毎の My ページや、RSS 配信なども行う予
定ですのでご期待ください。

今回、自分だけでなく多くの人が実際に利用
する Web サービスの開発にあたって、万人に通用
するシステムを作り上げることの難しさに直面し
ました。ですが、今回の開発を通じて、ゼロから
Web システムを開発するという大きな経験をさ
せていただき、エンジニアとして大きくステップ
アップすることもできました。これからも積極的
に同窓会活動に関わっていきたいと思いますの
で、どうかこの若造を暖かくお見守りください。



<http://rikuryo.or.jp/playguide/>

六稜文庫

(6月末までのご寄贈)

<http://rikuryo.or.jp/books/>

『山田五郎のマニア解体新書』

山田五郎 (武田正彦 / 89 期)

『現代語訳～おもしろ日本古典ばなし 115』

福井栄一 (97 期)

『夏休み 1 か月の会社を作るまち～「ビレッジ
ガルテン」という暮らし方』

シティサイエンス / 宮本篤 (92 期)

『私の失語症からの脱出 (及び言語は心、記
憶から生まれる)』

小竹正男 (57 期)

『地球放浪～夫婦で風まかせに生きてみる』

谷野賀津代 (94 期)

『岸本嘉名男自薦詩集～碧空のかなたに』

岸本嘉名男 (68 期)

『トマス・ハーディー全貌』

藤田繁 (68 期) 共著 / 日本ハーディ協会編

『都会のオアシス』

畠山和子 (69 期)

『早春の詩風』

岸本嘉名男 (68 期)

『ある警察官僚の詩』

越智俊典 (68 期)

『飛んで火に入る ことわざばなし』

福井栄一 (97 期)

『おくちにあえば、うれしいです～北鎌倉の料
理サロン "ボアメーザ" のレシピ』

若林美弥子 (88 期)

『詩文集 余白』

河野英通 (60 期)

『句遊～卒業 55 周年記念合同句集』

65 期句遊会 (65 期)



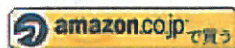
ご存知ですか？

<http://rikuryo.or.jp/books/amazon-associate/>

一度、六稜Webを経由して amazon.co.jp で
ショッピングをした場合、購入代金の数%が
Amazon 社から六稜同窓会へ寄付されます。
本を売価で買って、著者を応援し、同時に母校
への還元にもなる……ちょっと「いい気分」な
プログラム。ぜひ、ご利用ご協力ください!!

(書籍以外の商品もすべて有効です)

いますぐクリック→



Party Reports 1

建立された記念の石碑、もし霊あれば永く北野高校の発展を護り給え。

●六稜観梅会2008

●記念碑の集い

飯田周助 (48期)

阿部源三郎 (50期)

山中幸一 (71期)

谷卓司 (98期)

今年の記念碑の集いは4月21日に開かれた。元校長村田先生と卒業生ら28名が参集した。この北野の地の学舎に入学した最後の学年(昭5)が48回生である。筆者は級友三砂君に誘われ一昨年より参列しているが、今年は当時を知る者はこの2名のみとなった。この辺りは大阪駅北側の再開発により今後大きく変貌するであろう。

当時は校舎の北側を阪神電車が東天六から西の方海老江に向かって走っていたが、通学には利用してはいけないう事になっていた。筆者は天六から歩いて通った。正門を入った左側に別棟があり、動植物の研究室と一年五、六組の教室(筆者は五組)が入っていた。本館は古色蒼然たる建物であったが中の模様は知らない。剣道場が電車通りから見下ろせる場所にあり、ボロボロで通行の人達から内部が丸見えでよく授業を覗かれていた。田畑信先生は、このなか得意げに剣の型を披露しておられた。

当時北中生は宝塚の少女歌劇を見に行っていけない事になっていた。そのため兄(6歳年上、北中卒)は筆者を入学式前に宝塚へ連れて行ってくれた事を思い出す。同じ府立の浪高生はこのようなご法度はなかったようである。

北野の土地を離れて77年、今や十三に新北野町などの名前が定着してしまった。折角この地に

まだ少し肌寒い2月の最終土曜日、恒例の観梅会が催された。この季節特有の、どんより曇った天候だったが、春を待ちわびる70名近くの参加者が梅林公園記念碑前に集った。見ごろの満開にはあと数日…という感じであったが、平日にも拘わらず、梅林は大いに賑わいを見せていた。

今年の趣向はロードトレイン。2006年3月に大阪城公園内への一般車両の乗り入れが全面禁止になった際に始まった公共機関で、蒸気機関車を模した4軸連結タイプのバスが公園内をピストン運行している。これを六稜でチャーターして、城内から宴会場のあるKKRホテル大阪のすぐ前まで、移動しようという試みだ。わずか5分にも満たない乗車ではあったが、一行はひととき童心に還った。

KKRホテルでは、いつものように14階オリオンの間が準備されていた。木村市三(73期)事務局長の司会進行のなか、岡田一彦(65期)常任理事の挨拶で開宴。乾杯の音頭は最長老の牛田晴夫さん(46期)。御年92歳とは思えない…凛として澁刺な六稜人で、次の一句を披露された。

満開の 梅の一輪 ボクの寄附

このあと、しばらく歓談。

最後に、榎崎浩二さん(59期)が締めの挨拶。榎崎さんは、六稜100周年(1973)当時の常任

理事で、100周年記念事業の目玉企画として、大阪城公園に880本の梅林を寄贈する計画の立役者でもあった。

昭和48年、大阪市に公園局が発足した当時の管理部長だった榎崎さんは、「大阪市の『花づくり公園』計画の第1



号として、六稜同窓会からの寄贈をありがたく頂戴した。今では梅も1,200本に増え、市内屈指の梅どころとして、また市民の憩いの公園として定着している。今日、こうしてその姿を目にすると、とても感慨深く、また同時に『われわれ六稜の誇り』に思うと締め括った。

定刻の14:00にはまだ少し時間があったが、外は、みぞれ混じりの雨が降り始めていた。一同起立して校歌を斉唱した後、来年の再会を約して閉会となった。

来年の観梅会は2009年2月25日(水)開催の予定です。

※ なお、過去の参加者にはDMハガキによる案内があるので、まだ一度も参加したことのない方は、今から案内通知の登録だけでも済ませておくことをお勧めします。詳しくは同窓会事務局まで。

●ソフトボール部創部59周年OG会、9年ぶりのOG戦で旧交温まる

山岡(石川)香(96期)

11月23日(祝)、小春日和の日差しの中、OG



戦ならびに総会が行われました。115・116期生を中心にキャッチボール・トスバッティングで体をほぐした後、専用バックネットの前に移って、懐かしの“鎌ちゃんノック”を受けると、旧部員達は瞬時に高校時代に戻りました。

試合が始まると「ナイスピッチ・ドンマイ」等々の掛け声も次第に若返り・大きくなっていきました。途中大先輩の背中にデッドボールが当たるハプニングも。あれよあれよという間に、5対1でゲームセット。老若男女を問わず一つになって旧交を温めることができました。

続いて六稜会館3階ホールにて、約50名のOB・OGが出席してOG総会が行われました。元顧問の鎌田教頭先生の挨拶に続き、63期の阪井氏・64期の西池さんから創部当時の貴重なお話と乾杯の発声をいただき会食が開始。

宴の中盤、創部(昭和23年)以降の卒業アルバム写真の編集したDVDが応援歌・校歌をバックにスクリーンに登場し、稲葉先生や鎌田先生の変わり行く姿・自分達の若かりし日の姿に大歓声があがりました。

その後、出席者が自己紹介と当時の思い出を語り、中に



は先生への謝辞（謝罪？）や真相追求の言葉もあり、心なごむ楽しいひと時が過ぎました。そして、来年の60周年に向けて、若いOG達に再会の機を託して閉会。

長い伝統のある北野高校であるからこそ60年近くもクラブが存続し、世代を超えて同じスポーツを通して心通わせることができたことが驚きであり・喜びであり・誇りであると出席者の多くが感じたように思います。

残念な事は、ここ数年部員2名で、新入部員がいなければしばらく休部扱いになるということ。かつて毎年あったOG会も開催の間隔が開きましたが、OG会に多くの卒業生が集うことが、長年顧問をされてきた先生方への御礼の気持ちに代わるものだと感じ、次回多くの先輩方・後輩方と再会できることを祈念してやみません。

●吹奏楽部

服部 弥生（118期）

吹奏楽部は、1873年創立の長い歴史を持つ我が校にあって、1993年創部という比較的新しい部活です。しかし、創部年数に拘わらず、大阪府吹奏楽コンクール高等学校の部大編成A組北地区や大阪府アンサンブルコンテストにおいて、代表校に選ばれる等順調に成果をあげ、現在では、校内でも最大規模を誇る大所帯となっています。一方で、OBOGがまだ多くないの言うまでもありません。しかし、熱心な卒業生が多く、その活動は活発で、一昨年OBOG吹奏楽団も発足しました。OBOG吹奏楽団は卒業生が集う場もありますが、同時に、現役生をサポートすることで母校の活動に少しでも貢献しようという目的で、現在40名程が活動しています。吹奏楽部に限らず、私たちOBOGにとって、卒業後も母校と関わりを持ち続けられることは非常に嬉しいことですし、高校時代、共に青春を過ごした仲間達

と昔話に花を咲かせることができるのを私は幸せに感じます。

このように、吹奏楽部では卒業後も様々な活動を行っています。今日は、卒業生も参加する演奏会について紹介させていただきます。

先日、5月4日に北野高校吹奏楽部は、第11回定期演奏会を池田アゼリアホールにて行いました。この定期演奏会は、吹奏楽部では、夏の吹奏楽コンクールと並び、二大行事のうちのひとつという位置づけであり、毎年非常に力を入れて取り組んでいます。というのも、演奏会丸々全てを自分達で企画し、選曲や演出を考えるので、そのためにかける時間や気持ちの入り様も、計り知れません。また、定期演奏会をもって、3年生は引退・代替わりということもあり、1年間の集大成という意味でも、部員達にとって大きな意義のある演奏会なのです。私が高校生だった頃も、お客様が楽しむことのできる演奏会を目指して必死に練習し、あれやこれやと部員同士で毎日話し合いを積みました。今となれば、この経験を通して、「相手の立場に立って、物事を考え、工夫する大切さ」を実感し、学んだのではないかと思います。

この定期演奏会以外に、現役生とOBOGが共演するもう一つの大きな舞台は、毎年11月に北野高校多目的ホールで開催している「音の大収穫祭」です。この演奏会は、私が高校2年生の時（4年前）に第1回を行った非常に思い出深いもので、現在も伝統として受け継がれているということに非常に嬉しく思い、後輩達に感謝しています。そもそも、音の大収穫祭を開催することになったのは、「吹奏楽部の存在や演奏をもっと身近に感じてほしい」という願いからでした。顧問である佐々



（2007.11.26 音の大収穫祭終演後、北野高校多目的ホールにて）

木信明先生から、北野生や先生方、そして保護者の方々のために、at homeな演奏会を北野で行うのはどうか、というお話を頂き、部員は皆やる気満々になっていたことを今でも覚えています。定期演奏会も音の大収穫祭も、非常にバラエティーに富んだ、聴いていて飽きないような楽しい演奏会です。音楽の力を通して、高校時代の思い出に浸るのも一つの休日の過ごし方だと思いますので、皆様も是非一度ご来場ください。

OGとなった今でも、吹奏楽を通して、先輩方や後輩達、顧問の佐々木先生、多くの方々と関わっていただけることに感謝し、これからも吹奏楽部と母校の繁栄を見守っていけたら、と思います。

●六稜期別対抗ゴルフ2連覇達成

絹田 清 昭 (81期)

7月27日(日)に三田カントリー 27で開催された第19回六稜期別対抗ゴルフにおいて我が81期チームが堂々の2連覇を達成、勝利の美酒と美茶に酔いしれました。

昔、イチローが売出し中のころグリーンスタジアムで2本のホームランを打ち、試合の途中のインタビューで「また打ってしまいました〜!」。今より初々しい時代のイチローです。初々しい私たち81期にも「また勝ってしまいました〜!」と言わせてください。

昨年度は運に恵まれ(ダブルペリア方式ですから運に左右されます)優勝しました。我々自身「81へえ」くらい驚きましたが、またまた優勝とは!

途中でペアを組んだ新子(あたらし、と読みます)君が波乱万丈のゴルフをしていましたので、大叩きのところが上手くハンデホールに入れば優勝もあるで、なんて言っていましたら、何とそのとおりになってしまいました。結局これが決定打となったようです。

今回は、前回優勝ということもあり、過去5連覇?を達成された最年長71期の大先輩たちとラウンドさせていただきましたが、山本会長率いるツワモノ軍団は流石の実力と貫禄で、お陰さまで相当な緊張感を保てたのが良かったのかな、と思う次第です。私と新子は東口、水野両先輩とご一緒しましたが、お二人ともお元気で、たびたびオーバードライブの屈辱を味わいました。またお二人から今後の年金生活等も含め、定年予備軍の我々



に有意義なご助言まで頂戴し非常に得をした一日となりました。期別対抗の醍醐味ですね。

我が精鋭は、北村、高瀬、高田、辻、吉原、新子、額田、森、絹田に紅一点の自称マドンナ和田の10人。このメンバーで良く勝てたなあ、と息を吐きます。要はつきまわっていたということですが、2年続けてツキマクルのが怖いところ。来年が楽しみですぞ。

今年のクラブ対抗ゴルフコンペのお知らせ

第20回六稜クラブ対抗ゴルフコンペは
2008年10月5日(日)
三田カントリー27で開催予定です。

来年の期別対抗ゴルフコンペのお知らせ

第20回六稜期別対抗ゴルフコンペは
2009年7月26日(日)
三田カントリー27で開催予定です。



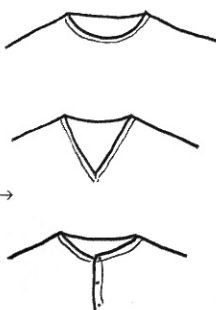
第二回選抜高校野球
大会優勝(1949)

サンフランシスコ平和条約
日米安全保障条約(1951)

メルボルン
五輪(1956)

ポリエステル
日本で生産(1958)

【男子】
白 丸首長袖シャツ
長ズボン



襟いろいろ→

←ゼッケン始まる?

70期(1958)



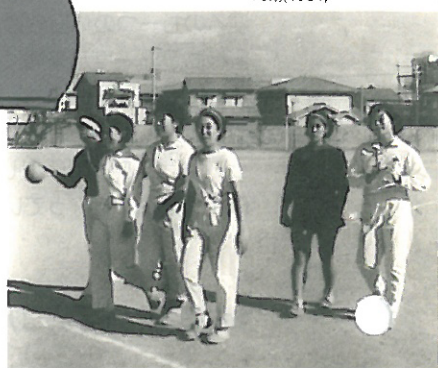
←帽子に一本線
(「大阪一中」の名残?)

【女子】
白 襟付き長袖シャツ
ちようちんブルマ



ブラウス素材?

76期(1964)



A t h l e t i c W e a r O v e r t h e Y e a r s

体操服の変遷

北野での保健体育、といえば、水泳、倒立、懸垂、縄跳び、断郊……

厳しく辛かった!!!

という印象をお持ちの方が、
多いのではないのでしょうか?

今回その授業で身に着けた
体操服に、注目しました。
時代と共に、素材、デザイン、
色など、変化してきました。

松田典子(95期)

中嶋明子(106期)



【男女】3本ライン
ジャージのデザイ
ン変更。半袖体操
服のラインカラー
が鮮やかに



120期(2008)

【女子】ブルマ廃止で紺色の短パンに

【男女】半袖体操服のベースカラーがアイボリー
から白に

【男女】長袖体操服がウルトラマンから襟付きに



112期(2000)

ご自分の頃とどの位変わったのか…校舎見学がてら、一度体育大会を観に行かれては如何でしょうか?

北京五輪
(2008)

アテネ五輪
(2004)

新校舎竣工
(2000)

シドニー五輪
(2000)

アトランタ
五輪(1996)

ローマ五輪
(1960)

大阪環状線
全通(1961)

東京五輪
(1964)

日本サッカーリーグ
開幕(1965)

ユニバーシアード
東京大会(1967)

メキシコ五輪
(1968)



襟ぐりが深い

79期(1967)

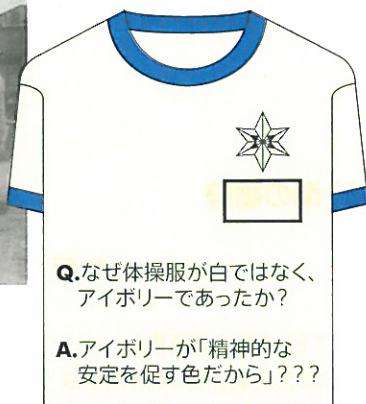
↑胸に校章を発見!!
(男子)



82期(1970)

ゼッケンいろいろ

東	西	南	北
A	B	C	



Q.なぜ体操服が白ではなく、
アイボリーであったか?

A.アイボリーが「精神的な
安定を促す色だから」??

【男子】丸襟半袖・ウルトラマン長袖・
帽子・ジャージ白

【女子】襟付白半袖・丸襟半袖・襟付白長袖・
堤燈ブルマ

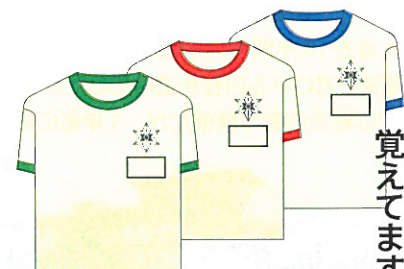
ゼッケン:風林火山、「年一組」の両者

風 林 火 山 1-X 2-X 3-X

84期(1972)



【女子】
3本ラインのカラージャージに(色不明)



※87期以前には…
幻の「イエロー」期も存在する?!

【女子】ブルマにサイドライン

あなたの学年カラー
覚えてますか?



105期(1993)

3-8 → 8

ゼッケン:「年一組」表記から、
クラス番号のみの表示に



87期(1975)

阪神淡路大震災
(1995)

Jリーグ
開幕(1993)

バルセロナ
五輪(1992)

国際花とみどりの
博覧会(1990)

ソウル五輪
(1988)

日本万国博覧会
「大阪万博」(1970)

ブル竣工
(1971)

冬季札幌五輪
「シニョール」(1972)

モントリオール
五輪(1976)

テレビ白黒放送
が終る(1977)

新体育館竣工
(1978)

ロサンゼルス
五輪(1984)

ラグビー部
全国大会出場(1987)

Party Reports 2

■61期の動静

内藤 壽一 (61期)

6月7日(土)心斎橋ハートンホテルにて、同期会総会を実施。案内状発送は185通、出席者42名・同伴者4名。実は当日会合を失念した人が3人居た。欠席者の近況欄は、いろんな病気のオンパレード。しかし可能なら出席したいとの気持ち伝わってくる。、、、

年4回のゴルフ・コンペは幹事(多田彰造)が声を漕らしても2組を集めるのがやっと。その割りに、三水会(辻本健次郎)、十三会(古川能弘)、明月会(大菅勝仁)といった呑み且つ食らう会合はコンスタントに続いている。胃袋に自信があり、おしゃべり好きな方は、連絡を取ってみられては如何?

■65期 55周年記念総会 ～加賀・山代温泉～

新原 章弘 (65期)

6月1日。快晴。西日本ではもう梅雨に入ったと発表されたのに北陸では絶好の晴天。それはそうだろう、一年半前この総会プランを検討するにあたり過去10年間の北陸地方空模様実績を確認し、最高と思われる日程を選んだのだから…。

65期では総会は毎年開催だが、5年毎の周年記

念には一泊総会としている。今年は卒業55周年記念、北陸山代温泉での一泊だった。

関谷全先生をお招きし、関東・九州からの参加者もあり総勢81名、新大阪駅前発ヨーロッパアンスタイルのバス2台でのデラックス・ツアー。

高速名神・北陸道を経ての快適バスは、まずは金沢西ICを出て市内での加賀前田家菩提寺名刹天徳院、金沢21世紀美術館の見学。

市内観光のあとは目的地山代温泉ホテル百万石へ。北陸屈指のホテルだけに歓迎は充分、いたれり尽くせりの応対とくつろぎの大温泉。

畳敷き大広間での大宴会はテーブル・椅子式、足腰の弱ったわれわれ年配には有難い設営。

ホテル大おかみは直々のお出まし挨拶で名門北野高校への賛辞と大歓迎の挨拶。すっかりご機嫌の出席者は殆んど感激のままの大宴会。

ステージでは400年の伝統のある加賀太鼓の実演、飛び入りでそこに加わる勇気ある会員諸兄弟。やんやの拍手で益々の盛り上がり。

当然の二次会は別室での延々三時間。カラオケ熱唱の後80人での大フォークダンスまで繰り上げられた。流石に二次会々場は11時半にはお開きとしたが、各自各部屋へ戻っての懇談・雑談は深更まで続き、翌朝のけだるそうな顔、顔。

ホテルを背景とした集合記念写真はそれでもばっちりの笑顔はさすが。

二日目加賀周辺での九谷焼窯跡展示館見学と、岩山洞窟本尊の那谷寺観光ののち、帰路へ。

高速道路でのバス旅行、幹事としてまずは行程の安全無事を何よりと願う二日間であったが、天気に恵まれ、事故なく全員再会を約して別れることができたことを有難く感謝しております。

もう間もなく「後期高齢者」を目前にするこの65期ですが、このように意気盛ん、この結集力の良さは同窓会年会費納入者率トップの位置を継続させている証左でもあります。

まだまだ頑張るぞ! 65期!

■77期 同窓会報告

栄原 道子 (77期)

2月23日(土)は、午前中の暖かさは何処へやら、風花の舞う飛びっきり寒い日となりました。会場はいつもの同窓会館。



昨年は還暦同窓会ということもあって、100名近い同窓生に、同窓会館もはちきれんばかりの大盛況でしたが、今年は57名がご参加くださいました。

1時に開会。司会は大塚幸男さん・藤井章子さんの2人です。恒例となった出席表の読み上げでは、順番も待ち遠しく、みんなこの時とばかり大声で「ハ～イ！」。

相模原から参加の大芝毅さんの「乾杯の音頭」で宴の始まりです。年齢を考慮してお魚主体のお料理に舌鼓を打ちながら、6つのテーブルで賑やかに話が盛り上がります。

初参加の方のスピーチには、40数年ぶりに会う懐かしさが溢れ、透析をおして駆けつけてくれた高橋さんご夫妻のお話に、健康のありがたさを改めて認識しました。「来年もまたみんな元気で会おな～!!」と参加者全員の心の中に強く刻まれた瞬間でした。

去年の大好評だった「紅屋」も復活。北野の制服、詰襟とブレザーの描かれた「紅屋」板から、元紅顔の美少年・美少女が顔を出し、仲良くツーショット。気持ちまで18歳に遡るのか、面映いカップルの姿もありました。

お待ちかね小林さん作製の「セピア色のスライドショー」。大塚さんのコメントも楽しく、画面が変わるたびに「〇〇君や!!」と当時に戻ります。でも「あれ誰や???」というものや、「あれホントに私??」と本人も首をかしげる写真もあり、やっぱり40数年の時間の経過が実感されました。

「還暦同窓会」だった昨年は、赤にこだわった企画が目白押しでしたが、今年は童心に返って「夜のくじ引き」。引っ張った紐の先、括られているどの袋が動くかみんな童心に戻ったようで目が釘付けでした。賞品は「北野」にこだわって、

- ・北野の新旧校舎の入った絵葉書（岡村さんのスケッチも入ってます）
 - ・北野のマークが入った紺地のTシャツ
 - ・同じくマークの入った紺地のタオルハンカチ
 - ・あとは、お菓子・耳搔き・知恵の輪など
- 全員空くじ無しの大当たり!!!

一同で校歌を歌って1次会はお開きとなりました。場所を変えて、気分も新たに2次会の始まりです！お酒の酔いも心地よく、みんなの舌も滑らかに、さらに話が弾みます。手違いで、乾き物以外

なかなか出て来ないおつまみにも、「そんな気にせんとき!!」と優しい言葉をあちこちでかけて頂き、ホッと胸を撫で下ろし、ウルウルと来た幹事です。

ご自慢の美声の締めくくりは「高校3年生」。みんなで肩を組んで、力いっぱい歌いました!!!

今回は大塚さんに司会を、花原さんにカメラマンをお願いしました。お二人とも快くお引き受けいただき、席の温まる間の無いほどの大奮闘をいただきました。

参加者全員より、心よりお礼申し上げます。



■第84期同窓会報告

池田雅文（84期）

平成20年6月21日（土）に、第84期の学年同窓会を新阪急ホテルで開催しました。平成14年以来6年ぶりとなる同窓会だけに、午後5時半の開会を待ちきれず、1時間以上も前から受付には昔懐かしい顔が続々と詰めかけ、早くも歓談の輪があちらこちらにできあがりました。

午後5時30分、これまでに亡くなられた恩師の先生方、同期の友人達を偲んで黙祷の後、辻孝生君の司会で同窓会が始まりました。ご出席いただいた恩師を代表して、英語科の上田浩石先生の挨拶をいただきました。引き続き英語科の田中博先生の御発声で乾杯の後、一気に高校時代に戻り、恩師のまわりには挨拶に訪れる人が絶えませんでした。130人近い出席者の中には、今回が初めての参加という人もいましたが、そこはやはり同期生、すぐに10代の記憶がよみがえり、懐かしい昔話や近況報告に時間があっという間に過ぎていきました。

2時間の予定の時間も過ぎ、いよいよ閉会ということになりました。恒例により、応援部の田中



康夫君のリードで校歌斉唱です。舞台上にはコーラス部の有志も上がり、みんな大きな声で歌いました。最後に世話人を代表して奥田聡子さんの挨拶があり、次は還暦記念同窓会かなどという中、散会となりました。

しかし、これで終わるはずもなく、2次会の3会場には100名近くが参加し、なかには3会場を掛け持つ人の姿もありました。また、仕事の都合で同窓会に参加できなかった人々たちもいましたが、連絡を取り合って何人も2次会に合流してきました。中には、明け方まで語り明かしたグループもあったとか。

(ご出席いただいた先生方) 上田浩石先生、川副昭人先生、田中博先生、中野祐二先生、野々村博先生、福田博造先生、藤尾直正先生、船木照二先生、松浦育代先生

■102期同期会

清水 博明 (102期)

卒業から18年。。。.

生まれてから高校三年生までと同じだけの18年の時が過ぎ、今や36歳になった卒業生男女が102期単独では初めて2月16日(土)に同期会で大集合しました。

旧2年6組の池田浩二君、八木健司君らと一年前から構想し、何度も打ち合わせをしながら本番実現へと進めていたのですが、如何せんこの発起人メンバーも東京、岐阜、大阪と離れたところにおり、また卒業後18年も経っているため「同期のみんなが主旨に賛同してくれるかなあ」という不安もあり、企画がなかなかスムーズに進まず「やっぱり同期会は難しいかあ…」と挫けそうになっているところに、宮方智広君、上田有香さん、濱田恵美子さんらが強力なサポートをしてくれ、遂に実現することができました。

参加者への呼びかけも組織だったものではなく、旧2年6組のメンバーから広がるネットワークで声をかけていくという「アナログな手段」で徐々

に広げていき、当初は10数名だった参加者も最終的には東京、静岡、佐賀など遠方からの参加者も加わり40名を超える本当に盛大な楽しい会になりました。

当日のプログラムは、まず六稜会館前に集合して新しくなった高校を見学。その後隣のPLAZA HOTEL OSAKAへ移動し懇親会という二部構成にしました。

集合した六稜会館前では本当に懐かしい顔に歓喜(?)が上がったり、抱擁(?)したりと、卒業以来の対面に懐かしさを超えて喜びに満ち溢れたシーンとなりました。

その後事務局の久保田さんによる六稜会館内や、新校舎の説明を丁寧に頂き、全く様変わりし、近代的になった校舎内を散策しました。昔の趣を残す部分(体育館、部室、食堂etc.)や全く新しくなった校舎がうまく交じり合った校内にみな感心し、至る所で記念撮影が行われていました。

<場所を移して懇親会>



最初は若干固かったメンバーも、卒業アルバムを見ながら、酒が入るとかなり打ち解けてきて、その後自己紹介が始まると方々から突っ込みが入るようなムードになりました。

政治家、医療関係者、先生、金融関係、タンク屋、ラッパー等々 多種多様な職業に従事し、同期生が活躍している様子が伺え、楽しく、かつ非常に刺激になった場でもありました。

その後 場所を変えて2次会、3次会へと突入。本当に遅い時間まで、多くのメンバーが飲み歩き、笑いの絶えない一日となりました。

次回は、2年後に「卒業20周年大同期会」をやることに決定。20周年同期会は、より多くの参加者が集まるよう周到な準備をし3年生のクラスごとに代表を決めて組織的に連絡をしようと考えています。

では、102期の皆さん、2年後にまた会いましょう!!

【座談会】

今の北野、かつての北野 ～変わった? 変わらない?～

北野高等学校校長
六稜同窓会名誉会長

石本正明

鎌田俊一(81期) 加藤悦子(85期)

「教職員異動」の欄でも紹介していますが、今春、二名の「母校に還った六稜生」が北野を去られました。そのお二人、現池田高等学校校長・鎌田俊一先生(81期)と現茨木高等学校教諭・加藤悦子先生(85期)をお呼びして、六稜同窓会名誉会長・石本正明校長先生とともに北野の昔と今について語っていただきました。



司会(出口) まずは教員としての先生方がご覧になった現在の北野高校生の様子と、卒業生としてかつてご自身が経験してこられた様子を比べて、変わったところ、変わらないところをお話いただけたらと思います。

鎌田 昔の方が時間がゆったりと流れていました。勉強は昔の方が厳しかったと思いますけど、次々に(課題を)与えられる激しさは今の方が際だっていると思います。昔は、いわば時間の密度を選ぶ余地がありました。今はみんな一斉に急流下りみたいな中に放り込まれて、その中でアップアップする子もいるし…。あまりにも激しい時間、おそらく府立高校の中で最も激しい時間が流れている気がしますね。

石本 どの学校も以前に比べたら、余裕というものなくなっていて、何かこう性急に結果・成果を出さなければという方向に流れているような気がします。その中でも学校によって成果を求められる厳しさの違いはあるとは思いますが、昔、と言っても数年代でなくもっと昔



だけど、に比べて無駄な部分の良さというか包容力というものが少し希薄になった気がします。

鎌田 北野の持っている厳しさというのは、本当のところこの子を鍛えてあげようというか、高い能力を持つ者の責任として目いっぱい自分の能力を伸ばすことについては容赦しないよという、そういう厳しさは教育の世界に本来あるべきで、北野はその厳しさを維持しようとしているのだと思います。その厳しさで迫っていったときに生徒の側に余裕がなくなってしまうということは、昔の北野に比べたら今の生徒のキャパが小さくなっているということなのでしょうか。

加藤 鎌田先生がおっしゃるような教育を北野で受けたのですが、自分が先生になったらすごく丁寧に教えてしまうので、それは何でかなあと。

鎌田 それはもう10cm手を伸ばしてあげないといけない子が増えてきたからなのでしょうけど、こちらが10cm伸ばしたら向こうの手も10cm下がる。そうすると20cm伸ばさないといけなくなる。というふうに、どこの学校も「悪循環」に陥っているのでしょうね。親切な、丁寧な、物わかりのいい先生が増えてきているというのは、北野にとってはある意味不幸だと思いますね。

石本 先日のPTA総会の挨拶で話したんだけど、ある幼児教育の専門家が子育てについてこれが一番大事ということがあれば、それをテーマにしてということで講演を頼まれた。そこでその専門家はそのテーマは一体何だろうということ、有名な園長先生とか、立派な教育者と言われる人とか、子育てがすんだお母さんとかに一番大事なことは何だと思うかと聞いて回った。するとほとんどの人が迷うことなく「子どもの自立」だと答えた、と言うんですね。

その一方で、東大の入学式で3500人の新生生に対して保護者の出席は2人までと制限し、それでも5300人が参加した。記念講演をした名誉教授で建築家の安藤忠雄氏は、「独創性、創造性を伸ばすためには子どもの自立を促す必要がある。親離れ、子離れが必要なのだが、このような様子では心許ない。」という趣旨であえて苦言を呈したというニュースを聞きました。親も教師もたぶん子どもの自立を望んでいるのだと思う。しかし実際子どもを目の前にすると、まかせる、放任ということができない。以前に比べて非常に手をかける。手をかけるということをしなければ親の責任・教師の責任が果たせてないというような風潮になっているのではないかと。無責任な意味で放任がいいというのではなく、本当に子どもの自立を促していくためにどこまでやらなければいけないのかというのは難しい問題だと思うんですね。

鎌田 今の学校には、何かをしないと、子どもたちに手をさしのべていかないとけないという強迫観念がありますね。でも、全く手を引く込めてしまう勇気は……たぶんないですよね。

加藤 自分が生徒だったときは勉強で苦労したんです。生徒だから自分を客観的に見られないんですよ。回りの友人はすごく賢そうに見えるし、あてられてもちゃんと答えられる子はいるし……でも卒業してから同窓会などでよく話題になるんですけど、友人が「私も勉強はアカンかった。でもアカンって言えなかった。」と言うんですね。「客観的に見て北野ににいるということに意味があるのだから、科目一つ一つの成績がいいとか悪いとか、そんなに心配しなくても大丈夫だよ。」ぐらいの一言を誰かが言って

くれていたら、あんなに自己否定しなくて済んだかな、という気がするんです。大学に入ってゼミぐらいの少人数の場で自分の意見や考えを受け入れてもらえた時に初めて「自分はそんなにアカンことないのかな」ってやっと思えたから、そういう意味で自立を支える精神的安定をどこかで保証する必要があると思うんです。それが昔の北野にあったら私はうれしかったかなあと。でも教員になって戻ってきて生徒に接してみると「もっと勉強しなさいよ」と思うんですね、やっぱり。

鎌田 それでいいと思いますよ。勉強の面ではほとんどの生徒が居心地が悪いんですよ。でもそれは学校全体としての居心地の悪さとはまた違うんでしょうね。要求される勉強は昔の方が厳しかった。でも勉強ができなくても昔は先生の方もそれなりに突っばねていたから、子どもの方もどこかに逃げ場所があった気がします。今の子どもたちが真綿でじわじわとしめられるような息苦しさを感じているとしたら、学校が親切になっていて、その親切な手にすら救ってもらえない子どもたちが本当に「居場所がなく」なっているんじゃないでしょうか。

当時の先生は割と好き勝手に授業をしておられましたね。極端に言えば、受験勉強に必要なことは参考書にも書いてある、でも参考書にないことを教えてくださった。そういう大学の先生のような魅力を感じる部分があったと思います。同級生にもいわば得体の知れない魅力を持っている者がたくさんいて、そういう部分が財産だったでしょうか。

石本 私が高校生だった時の印象では、普通に淡々と、今の先生方の授業とそう変わらない普通の高校の授業をされる先生が多かった気がするかな。もちろん力量の高い立派な先生がたく



さんおられたし、勉強では鍛えられましたよ。もし北野に鎌田先生の言われた学者肌のような個性の強い先生がたくさんおられたとすれば、その点は他の学校とは違うように思うね。もう一つは、あさって（5月28日）が球技大会なんだけど、当時は北野と大手前の交流戦というのがあって、その交流戦にこちらから行ったり、北野生が来た時にね、彼らが何かえらく燃えていてすごく勝敗にこだわっているように思うわけ。僕らは楽しくやればいいという感じなのね。

鎌田 その印象はたぶん正しいですよ。僕らから言うと、「大手前には負けられへん」という気持ちが確かにありました。

石本 今の北野生でも何かこう一所懸命にやるところがありますね。自分なりに目標を持ってやるというのは悪くないんだけど、その目標が自発的なものなのか、それとも「外から期待されていることに応えなければ」という気持ちによるものなのか。それが逆にプレッシャーになっていないか心配だね。

鎌田 「とりあえずは勝負にこだわる」というのはありましたね。北野だから、と言えるのかどうかはわからないですけど。

石本 校長としては、団塊世代の退職時期を間近にして、北野の伝統、北野らしさといったものを誰が教員として来ても引き継いでいけるようにすることが大きな課題だと思うけれど、それはなかなか難しいと感じているんです。北野の個性は北野で長く勤めてこられた先生方の個性なんです。一朝一夕に受け継いでいけるものじゃない。教員の年齢構成が高齢化していて、中堅層や若手の人が非常に少ない状況で、どうやってバトンタッチしていくのか。学校の個性がそれほど強力でなければ、学校の雰囲気もそれなりにつくられていくんだけど。新しい試みにも取り組みながら、北野の個性、校風といったもの、北野らしさをどう受け継いでいか、やはりいい先生方に来ていただいて北野の雰囲気に馴染んでいただきながら活躍していただくことが大事なんですね。

加藤 北野の教師になって思ったのは、「手を抜こう」なんて絶対に考えないんですよ。準備が不十分な時もありますけど、「これくらいでええわ」という感じでは授業に行けな



かったし、終わっても「ここは不十分やった」とか思ってしまう。自分の持てる力の最高のところで授業をしたいし、しなければならないという両方があると思う。どの先生もそう思っておられるから、ある意味それが北野の雰囲気を作っているのかもしれない。

鎌田 その雰囲気を作っている一つが生徒かもしれないし。

加藤 それが今までの北野の先生がずっと引き継いでこられたものなんだろうね。とにかくベストを尽くして授業をするという。

石本 僕ももっと若かったら北野生相手に自分の授業スタイルが通用するのか、一回やってみたいなあとも思うけど…。(笑)「手を抜けない」という授業の厳しさを経験してみたい気持ちもあるね。きっとその部分は昔も今も変わっていないのだろうね。

司会 お話はつきないのですが、そろそろ紙数も限られてまいりました。本日はありがとうございました。

「平成20（2008）年5月26日収録」
文責：出口学（94期・学内理事）

母校に還った六稜生

『あの頃の思い出、そして今…』

化学科 福田 稔 (83期)

『北野に着任したのは、40代にさしかかった頃だった。まだ、母校は旧校舎が健在で、休日の午後、3階の暗く長い廊下を通り、角を曲がって便所の横、水場の前の階段を降りていると、下から学生服を着た悪友どもが不意に出てきそうな、そんな気がしたものだった。』

着任2年目の秋、1年の担任をしていた。「忘れ物があるので教室まで」と校内電話。須原先生の声。担任クラスの生徒のものだと思い急いで教室へ。

「講堂下の倉庫片づけてたら、これが出てきたんやが」と須原先生、古びて破れた学生帽を差ししながら。(この頃、学帽被っている生徒なんかおれへんけど…珍しいなァ…工工と、名前は…見たことのある字ィやナァ……1年×組福田稔!!)

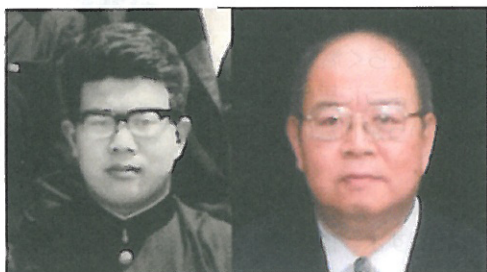
須原先生。「あんな所で何してたんや。煙草でも隠れて吸うてたんと違うんか? 停学やなァ」1年の時には、確かに被っていたが、そう言えば卒業の時には学生帽の行方は判らなくなっていた。(当時、新入生は、金色に輝く六稜星の帽章、横に真っ白な一本線の制帽を自慢げに被り、上級生になるつれて、段々と被らなくなったものだ。)

しかし、講堂(例の、床がきしむ、壁に歴代校長の肖像が並んでいる)下倉庫にどんな用があったのだろうか? 記憶にない。そんなところで煙草を吸った覚えもない。20年以上も経って、しかも私が、教員になって戻って来るのを待っていたかのように見つけられるとは。この間、幾度も講堂下倉庫の片づけが有っただろうに。

更に15年経った。建物も建て替わり、件の講堂も既に無い。あの帽子は家のどこに仕舞ってあるのだろうか。また、1年の担任をしている。』(今は、2年の担任。)

上の拙文は昨年度柔道部OB会会報に、顧問雑感として書いたものだ。

オイルショック一次、二次の波の中、技術系の



大学にぐずぐずと長居をしたあげく、なぜか教員採用試験にだけは受かってしまい、新採で赴任した前任校は中河内の工業高校。普通教科の教員としては比較的長く、14年間勤務した。ゆったりと

した河内の風土。工業科の男っぽい雰囲気。やんちゃなところもあるが、気のいい生徒。すっかりなじんで、このままでとも思っていたが、そうもゆかず、通勤時間の短いところへと希望を出すと、自宅から至近の北野への異動となった。どこで教員をしようが大阪府の公務員、同じだと腹を決めて転勤してきた。前任校も北野も生徒は、同じ世代の若者で、かわいい高校生には変わりはない。大半が就職する工業高校でも、進学が普通の普通科高校でも、高校教員として変わりなく勤めてきたつもりだ。母校だと言って特別の思い入れもない。しかし、卒業した学校で、教員として勤務するというのは難儀なもので、色々和不都合が生じる。先の文もその例で、過去が突然現れてくる。

勤務年数が長くなり、多目的ホール(昔の講堂の役割をする)の演台から生徒諸君や保護者の方々に話をする機会が増えてきた。どうしても、偉そうで、説教じみしてくる。話していると、歴代校長の肖像(今は多目的ホールの両側の壁に)の中から、3年のときの担任(教育実習のときには校長)I先生の視線を感じる。「ふーむ福田君。君がそう言うかネ…ふーん」。誠に辛い。あの頃の自分を省みて、何を偉そうにと……。『仕事です』『立場で言っているんです』…全て虚しい言い訳になってしまう。とかく母校は難儀なものだ。

I先生。教員採用試験の合格報告に行かせていただいた時に下さったお言葉、今も大事に心に留めて勤めています。教員生活の中で先生のおっしゃった深い意味が少しずつわかってきた気がしています。まだまだですが。

『今も昔も変わらないもの』

英語科 佐々木 里 佳（100期）

縁とは不思議なもので、卒業後14年を経て、教師として母校に還って来た。「母校に精一杯恩返しせよ」との機会を与えられたと思い、微力ながら奮闘の日々を送っている。

私が再び母校の門をくぐった2003年、校舎、図書館は全面的に建て替えられ、モダンで斬新な六稜会館も完成していた。まるで違う学校へ来たように感じた。ただ、50Mプールと食堂、体育館、クラブボックスのみが当時のままで、時代が交錯したような不思議な感じと懐かしさが一気に込みあげてきた。不安と緊張で新校舎に足を踏み入れると、長年北野に愛情を注ぎ、北野を支えてこられた多くの懐かしい先生方が、温かく迎えてくださったのが本当に有り難かった。

高校時代は、バドミントンに明け暮れる日々であった。朝7時から朝練に参加し、今の生徒と同じように休み時間に「早弁」し、昼休みのベルが鳴るとともに、待ってましたとばかりにロッカールームへ駆け込んで着替え、体育館で昼練。当時はまだ同好会で、体育館のコートが使えるのは朝と昼だけだった。そして放課後は当時の正門付近にあった大きな楠の木の下で、素振りやストレッチ、フットワークをして、河川敷に走りに行く。部活が終わるとペコペコになったお腹とともにティ（食堂）へ直行し、クラブのみんなと「オリジナルのここの問題はどうか解くの？」だの、授業でわからないところをワイワイ話し合ったものだった。校庭も今とほぼ変わらぬ風景で、各クラブが毎日練習に明け暮れていた。高3の冬には、ラグビー部が見事全国大会出場を果たした。共通一次試験直前にもかかわらず、花園に応援に行ったのを覚えている。ひたむきに過ごした高校時代であった。

母校に還り、校門をくぐるたび、あの高い教壇に上がるたび、責任の重さをひしひしと感じ、凛と身の引き締まる思いがする。



生徒達が後輩であるが故に、生活面においても、学習面においても「なぜこんなことがわからないのか？」と、ついつい目をつり上げてしまう日々である。しかし、振り返ってみると、やはり「自

分もよく先生に怒られた」のである。教育の効果など、1日1年では現れない。長い時間をかけて、本人が成長して初めて現れるものである。

北野高校も時代の流れとともに、様々な面で変わりつつある。校舎はもちろん、前期・後期制、65分授業、男女家庭科共修、保護者の授業参観、中学生の体験入学、ケントウッド高校との姉妹校交流、スーパーサイエンスコースの設置等、大きく変わってきた。しかし何もかもがうまくいくわけではない。スタッフも、設備も拡大しなければ、旧態依然ではしわ寄せがどこかにくるのは当然である。

昔、北野では時間が悠々と流れていた。ところが現在、生徒も職員も多忙を極めている。図書館に足を運び、じっくり本を読んだり、社会のこと、将来の夢、人生について友人と語り合う余裕はほとんど無くなっている。これは、昔の北野を経験したからこそ憂える、今の北野が抱える大きな問題であると思う。

ただ、今も昔も変わらないものがある。縄跳び、オリジナル、断郊だけではない。生徒の自己を律する厳しさである。授業、部活、行事、様々な場面で彼らの若者らしいひたむきさを目にし、心を打たれる。自分に厳しく、他人に優しくする強さが、精神的にも、肉体的にも彼らを成長させている。

『六稜魂』それは、北野高校で芽を出し、卒業後年を重ねるにつれて、その存在の大きさに気づくものだとわかり始めた。

母校の窓

北野高校国際交流

北野からケントへ

2008年3月22日から4月5日まで、今年も生徒5名と教員2名がケントを訪問しました。全校生徒に配布された「大阪府立北野高等学校国際交流報告集」より、生徒たちの文章を抜粋してその様子をご紹介します。

“My Precious Memories” より

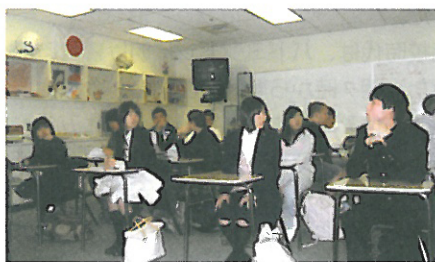
めっちゃ長いフライトの末、ようやくアメリカに到着です。これから2週間も全く言葉の通じないところへ行くのだという不安と、興奮と、機内の狭さで眠ることができず、初っ端から睡眠不足な状態で今回の短期留学は始まりました。

空港にはそれぞれの生徒のホストとその家族が待っていてくれました。私の1週目のホストのKellyは15歳だったのですが、私よりも年下だとは思えないほど大人っぽい人でした。そして、空港からの帰りの車内からいきなり英語漬けの生活が始まりました。機内でちょっと頭に入れておいたので、自己紹介したり、アメリカについてわからないことを聞いてみたりして、英会話に挑戦しました。私の今回の留学での目標は『この2週間にできるだけたくさんの人と英語で喋ること』でした。最初はなかなか聞き取れず、何度も何度も聞き返して会話が進みませんでした。もっと話したいのに！と思う気持ちが空回りしてもどかしかったです。でも、Kellyも家族も私ができるようにゆっくり話してくれたり、簡単な言葉で言ったりしてくれました。家での生活には意外にも、電子辞書はあまり使うことはありませんでした。



“My first visit to America!” より

学校に通い始めてからも同年代の子たちの生活や服装を見ることができたり、いろんなところで話しかけてもらえたり、とても楽しかったです。日本とは違って授業中にドーナツを立ち歩いて食べていたり、普通におしゃべりしていたり、びっくりすることたくさんありましたが、みんな楽しんで学校生活をおくっていたのが印象的でした。アメリカでは自分の選択によって学年関係なく同じ授業で学ぶこともあるので、自分がもう日本で習っている内容もあって、説明の仕方の違いなども発見できて面白かったです。日本語クラスでは日本での英語の授業とはまったく違う雰囲気での初めは驚きましたが、みんな学習意欲がすごくて日本とは比べ物にならないくらい積極的に授業に参加していました。1週間 Kentwood 高校に通ってみると、自分もここに通ってみたいと思えるほどとても自由で楽しかったです。



“I'm an American!” より

Kent Lake の日本語クラスは今年できたばかりなので4、5、6時間目の3時間しかなく、プレハブ校舎でした。みんなそれぞれに日本語名がついていて、なかにはかなりおもしろい名前もありました。日本語1年生とは思えないくらいみんな日本語が上手でした。

アメリカの学校は日本と違って何もかもが大きかったです。生徒は2600人もいて、いつも賑わっていました。車で登校する生徒も多く、学校には巨大な駐車場がありました。また、アメリカ人は日本人と違ってみんな明るくて、開放的だったので新しい授業に参加する度に名前を聞かれ、たくさんの質問をされました。

アメリカでは語学の選択肢が多く、スペイン語、



KENT LAKE校 マーケティングクラスの授業で
日本文化紹介を兼ねていなりすしを販売。

フランス語、ドイツ語、中国語、日本語などがあり、2年間の課程を終えて、3カ国語めを学ぶ人や、母国語と英語ともう1カ国語を学ぶ人もたくさんいました。他にも、新聞、写真、陶器、車の解体、料理、オーケストラといった魅力的な授業もたくさんありました。毎日同じ時間割なので、どれもこれも専門的でした。音楽クラスの生徒はすごく声が美しく、陶器クラスの生徒は職人みたいでした。

“出会いと別れの2週間” より

2週目は Lauren のお家に泊めていただきました。彼女は将来日本で英語の先生になりたいようで、日本語をとてと熱心に勉強していました。私が Lauren におにぎりの作り方や日本語を教え、彼女や彼女のお母さんから英語を教えてもらいました。また、Lauren のお父さんが小学校の先生をしてもらったので、同行した北野のメンバーと共に勤め先の小学校へ行くことになり、生徒に日本について教える機会を作ってくれました。意外にもたくさんの子供たちが日本の生活などについて様々なことを質問してきて、私たちがつたない英語で答えるのを興味津々と聞いてくれました。また、毛筆で生徒全員の名前を当て字の漢字で書くと、皆は喜んでくれました。最後にお父さんや子供たちがありがとうと言ってくれて本当にうれしかったです。



“2週間の記録” より

まず、一番大切なことを書いておかなければならない。楽しかった！とにかくこの一言に尽きる。僕達にアメリカの高校訪問という、これを逃せば

二度と無いであろう貴重な機会を与えてくださった方々に感謝したい。本当にありがとうございました。

それから、今の2年生で少しでも興味を持っている人達へ言っておきたい。是非行ってください。こればかりは自分で体験しなければ価値はわからない。こんなことを書いて今年度の倍率が跳ね上がっても責任はとらないけれど。英語力や生活習慣の違いについて心配している人がいるかもしれないが、それは実際に行けば結構どうにでもなる。人間1週間ぐらい昼食がピザのみでも案外飽きないものだ。少々カロリーが高かろうが、まあ「さすがアメリカ」という程度のことである。会話に関しては、2、3日もすれば自然と耳や口が慣れてくる。高校生ともなれば、それなりの土台は出来ているのだ。

ケントから北野へ

今年は6月21日にケントウッド校から生徒2名と教員1名、ケントレイク校から生徒2名が来日しました。25日の夕刻に阿武野高校との間でホストファミリーの引き継ぎが行われ、翌26日の昼休みには運動場で全校集会を開き、ケント地区からの派遣団が北野高校の生徒・教職員に紹介されました。今年の生徒も上手な日本語で挨拶し、北野高校側では生徒自治会長が英語と日本語で歓迎のことばを述べました。

この日の放課後はウェルカム・パーティー。翌日からは授業に参加したり、ホストファミリーと過ごしたりという日程を終え、7月1日に無事帰国しました。(文責：出口)



全校集会にて (山形徹先生撮影)

平成 19 年度文化活動振興賞

今回の受賞者は、120 期生の太戸千尋さん。在校中は昨年度文化活動助成金を受けた美術部に所属し、作品制作にうちこみました。校外の展覧会などでも素晴らしい業績を残されました。



六稜祭当日の 6 月 8 日、校長室において授与式が行われました。授与された盾には、「とくにその作品は美しい色彩と丁寧な細部の描き込み 独特のコラージュ技法を活かした構成で明るく陽気で清々しいイメージ表現を作り上げ 観る者すべてを魅了します」という一節が刻まれています。

平成 19 年度大阪府高等学校美術・工芸展デザイン部門奨励賞に輝き、大阪府教育委員会が発行したパンフレットの表紙に採用された作品を北野高校に寄贈していただきました。



教職員異動（敬称略）

・退職

教諭 国語 山形 徹

教諭 社会的 井 洋二

養護教諭 渡辺 繁子

（以上 3 名の先生方は再任用で引き続き北野高等学校に勤務）

・転出

教頭 鎌田 俊一

池田高等学校校長に

首席 英語 加藤 悦子

茨木高等学校へ

指導教諭 理科 原田 公彦

千里高等学校へ

教諭 数学 鐵岡慎一郎

天王寺高等学校へ

・着任

教頭 竹内 祥浩

門真なみはや高等学校教頭より

教諭 数学 齋藤 悦子

千里高等学校より再任用

教諭 理科 竹尾 真

鳥飼高等学校より

教諭 英語 佐川 昭

港高等学校より

技師 仲里 碩晃

北野高等学校校定時制より再任用

おくやみ

昭和 49 年度より平成 16 年度まで学校医としてお世話になりました内田俊策先生が本年 5 月 13 日にご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成 20 年大学合格者・就職者数等一覧

国立大学		公立大学		私立大学		私立大学	
北海道大学	3	兵庫県立大学	2	立教大学	8	聖トマス大学	1
筑波大学	1	首都大学東京	3	早稲田大学	22	兵庫医療大学	1
お茶の水女子大学	1	岐阜薬科大学	1	朝日大学	1	武庫川女子大学	8
東京外国語大学	1	京都市立芸術大学	2	京都嵯峨芸術大学	1	帝塚山大学	1
富山大学	1	京都府立大学	3	京都産業大学	1	合 計	619
信州大学	1	京都府立医科大学	2	京都女子大学	9		
岐阜大学	1	大阪市立大学	16	京都造形芸術大学	1		
名古屋大学	1	大阪府立大学	21	京都薬科大学	17		
三重大学	1	神戸市外国語大学	1	同志社大学	94		
滋賀大学	2	奈良県立医科大学	3	同志社女子大学	8		
滋賀医科大学	1	奈良県立大学	1	佛教大学	2		
京都大学	56	岡山県立大学	1	立命館大学	123		
京都教育大学	1	県立広島大学	1	龍谷大学	5		
京都工芸繊維大学	7	九州歯科大学	2	大阪医科大学	3		
大阪大学	51	合 計	59	大阪大谷大学	1		
大阪教育大学	10			大阪経済大学	1		
神戸大学	32			大阪経済法科大学	2		
兵庫教育大学	1			大阪女学院大学	1		
奈良女子大学	8			大阪電気通信大学	2		
和歌山大学	1			大阪薬科大学	11		
鳥取大学	2			関西大学	86		
岡山大学	2			関西医科大学	3		
山口大学	1			関西医療大学	1		
徳島大学	3			関西外国語大学	1		
香川大学	2			近畿大学	27		
九州大学	4			四天王寺大学	1		
佐賀大学	1			摂南大学	2		
鹿児島大学	2			千里金蘭大学	1		
合 計	198			関西学院大学	82		
				甲南大学	10		
				甲南女子大学	3		
				神戸学院大学	4		
				神戸女学院大学	6		
				神戸常盤大学	1		
				神戸薬科大学	6		

事務局だより

理事会報告

■平成20年2月16日

- 平成20年度予算案を承認
- 新会長については山本次郎会長に一任を承認
- 135周年記念名簿予約及び掲載広告説明
- 後援名義の使用についての内規を承認
- 会館利用者の年会費納入促進について

■平成20年6月21日

- 平成19年度決算承認
- 135周年記念総会説明
- 会則に基づく学年理事の確認
(62期迄1名、63期以降男女各1名)

年会費納入状況

2007年度は5682人の方に納入していただきました。納入率は20%で前年と同じですが、実数として107人の増加となりました。

2008年7月末現在の本年度の会費の納入状況をお知らせします。

納入者数は4148人で、納入率は14%です。

納入率の最も高い期は常連の65期で、既に41%の方が納入していただいております。次いで61期の39%、60期の38%、68期、73期の37%、66期の36%、56期、69期の35%となっています。

一方、91期、95期及び97期から117期は10%に満たない状況にあります。

特に、5%以下である2%の110期、3%の106期、112期、4%の103期、104期、105期、107期、108期、109期、5%の98期、101期、102期、113期各期のご協力をお願いする次第です。

納入が未だの方は会報に挟み込んである払い込み用紙で、郵便局かコンビニの用紙を選択して納入していただきますようお願いいたします。

六稜グッズ



■Tシャツ	M	TSM	800円
	L	TSL	800円
	2枚で		1500円

■ハンカチ	S	HDKS	300円
	M	HDKM	400円

郵送の場合3枚以上



■葉書

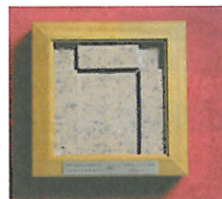
ラストショット	LST	500円
校内スケッチ	PSS	500円

■われりく（我ら六稜人）

1998年	W98	1500円
1999年	W99	1500円
2000年	W00	1500円
2001年	W01	1500円
4冊セット	W4S	4000円

■タイル

STL 5000円



■DVD六稜魂

RRD 2000円

■130年史

130 2000円

六稜グッズ・・・

申込は、記号でお願いします。
詳しいことは事務局まで。

六稜短信

2007年9月以降、2008年7月までにご連絡いただきました方々を掲載させていただいております。

43期	阿波野 栄	2008年1月23日
47期	青山博次郎	2008年1月27日
49期	久保 敬一	2008年5月20日
50期	野田吉兵衛	2008年2月18日
51期	星野 和夫	2007年11月4日
	河合 彌	2007年12月6日
	大久保旦二	2008年3月6日
52期	吉岡 茂之	2007年9月9日
	澤田 麗荘	2007年11月17日
	西海 三郎	2007年11月18日
	荻野 宏平	2008年1月6日
	坂上 治雄	2008年6月5日
53期	長濱 謀	2007年12月5日
	石田 孝治	2008年2月14日
	野口藤三郎	2008年7月14日
54期	井上 倍夫	2007年9月26日
	西川 一行	2008年2月14日
	山岸喜一郎	2008年2月18日
55期	藤井 潤一	2008年2月3日
	川村 吾郎	2008年2月13日
	石津 純正	2008年3月6日
	橋本 道夫	2008年4月14日
56期	大谷 元	2007年12月31日
57期	奥野昭二郎	2008年4月8日
	内田 俊策	2008年5月13日
	内村 哲朗	2008年5月19日
58期	若江 政之	2007年12月20日
	山下 富治	2008年3月1日
	尾崎 巖	2008年5月11日
59期	三上喜久男	2007年10月15日
	八幡 雄将	2008年4月
60期	竹歳 正夫	2008年4月30日
	青木 義和	2008年5月14日
	首藤 福二	2008年7月4日

61期	萩原 正保	2007年12月16日
	大嶋 良平	2008年1月12日
62期	市石 巖	2007年10月16日
	岸本 克知	2008年5月13日
63期	山治 長敬	2007年12月10日
	岩田 卓也	2008年4月2日
	岡野 事行	2008年6月4日
64期	藤本 正道	2007年8月3日
	植田 勉	2008年1月12日
	豊福美名子	2008年2月5日
	中野 平	2008年4月3日
65期	疋田 英昭	2008年5月6日
66期	伊藤 祐禎	2007年11月
	丸野 豊子	2008年8月1日
67期	小磯三八子	2008年2月6日
	内山 芳子	2008年2月28日
	京谷 久	2008年4月14日
68期	高木 寧人	2007年11月11日
69期	長谷川秀夫	2008年2月16日
	柴田 太郎	2008年6月24日
	有光 友治	2008年7月9日
70期	上谷 周一	2007年8月15日
	隅田 秀明	2008年1月23日
72期	三上 勲	2008年2月
	西野 敏克	2008年6月14日
76期	家野 芳夫	2008年2月
	久米 重治	2008年5月2日
	中村 修	2008年6月16日
78期	平井 啓子	2007年12月27日
84期	高田 巧也	2007年11月
87期	有本 一郎	2008年2月
91期	吉田 和哉	2008年5月30日
105期	森川 房子	2008年1月15日
ご卒業期順、および、ご逝去日順に掲載しております。 謹んで、お知らせいたします（敬称略）。		
恩師	大田 守	2007年12月20日
恩師	錦田 真和	2008年5月23日



表紙解説

今年の六稜祭に登場した巨大迷路。「風を受けると、とても倒れやすい俯瞰で見る様相はハンプトン・コート宮殿（英ロンドン）の迷路園をも思わせる。中庭を埋め尽くした机の総数は200脚を優に上回るという。1年2組の作品で、クラス40人全員が取り組んだ。金曜日に4時間がかりで机を移動、土曜日はほとんど丸一日を迷路づくりに費やした。最後に農業用の黒ビニル（100メートル巻×4本）で覆って完成。教育実習生の中井亮さん（116期）も、生徒たちに混じって汗を流した。

「風を受けると、とても倒れやすい構造なので、はじめのうちは大変でした」「重しをいろいろ工夫することで、成功裡に完成することができました」一丸となった生徒たちの声は達成感に溢れていた。「昨年度も1年2組が取り組んだこのアイデア……発案者の福田稔先生には今年もテクニカル・アドヴァイザーとして、細部に至るまで丁寧に指導していただきました」担任の黒田真樹先生の談。

六稜同窓会135周年記念総会

開催のご案内

日時:2008年10月26日(日)13時から

場所:北野高校 多目的ホール・六稜会館

総会

12:00 受付開始
多目的ホール 13:00

在校生吹奏楽部の演奏
新役員紹介

135周年記念品目録贈呈

活動報告

卓話:庄境 誠さん@89期

「“開け、ゴマ!” 技術の過去、現在、未来」

“開け、ゴマ!” 技術は、人間の声を自動で認識する(音声認識)技術です。

長く研究されてきたこの技術は、今や実用化の段階に至りました。

また、この基本技術は、人間の声以外にも応用が可能です。

人間の「いのち」と「くらし」に役立つ近未来の姿を紹介します。



Shouzakai Makoto

【しょうざかい・まこと】京都大学工学部卒、同大学院工学研究科修士課程修了。

旭化成工業株式会社に入社。在職中に、ヘルシンキ工科大学・客員研究員、奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科博士課程在学などの経験を経て、現在は、旭化成株式会社音声ソリューションビジネス推進部部長、情報技術研究所所長、グループフェロー。

専門は、音声認識を中心とする音声情報処理、パターン認識分野。工学博士。

(終了予定)14:45

懇親会および120期歓迎会

六稜会館3Fホール

15:00 参加費 3,000円(ただし事前払込は2,900円)

64期(S27卒)以前と、120期(H20卒)の方は、参加費無料。

幹事期:89期

(終了予定)16:30 【お願い】ご出席の方は、同封の返信はがきをお送りください。

135周年記念名簿【好評発売中】

定価 5,000円

すでに予約申込いただきました方には順次、発送します。

総会の会場でもお求めいただけます。



六稜会報 No.51

編集委員 壽榮松正信(74期)
作山 倫子(88期)
安井 昌子(88期)
尾辻かおる(90期)
出口 学(94期)
松田 典子(95期)
谷 卓司(98期)
中嶋 明子(106期)
北野 美穂(113期)

発行 六稜同窓会 <http://www.rikuryo.or.jp/>
〒532-0025大阪府淀川区新北野2-5-13府立北野高校内
tel.06-6306-0374 fax.06-6306-1335
email.office@rikuryo.or.jp

事務局 ☉月・水・金(祝日は休) 10:00~17:00

印刷 株式会社ひかり工房
〒556-0002大阪府浪速区恵美須東1-10-2
tel.06-6641-6011 fax.06-6641-6012

発行日 2008年9月1日
発行者 山本雅弘(71期)
編集長 千種康一(88期)